

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 木津 美里

私は今回助成金の援助を受けて、大学が紹介する短期留学プログラムに参加しました。平成30年2月26日から3月10日までの約2週間オーストラリアに滞在し、現地の学校の語学研修や薬学研修を受けましたので報告いたします。

## 1. はじめに

今回14人の学生が大学よりオーストラリアの短期留学に参加しました。滞在したのは Kingscliff という海辺に沿って広がる町で、私たちはそこに住んでいる人の家にホームステイし実践的な英語に触れあうとともに TAFE という様々な職業の訓練を行う学校に通い、オーストラリアの文化や薬剤師・医薬品についての授業を受けました。

## 2. 語学研修について

オーストラリアでは移民の受け入れが多く行われており、そのため TAFE では移住してきた人が生活できるように英語の授業が開かれています。滞在中は、英語の先生の一人である Liz という方から英語を学びました。オーストラリアの地理や固有種の生物について学習することを通して、英語を話す力や聞く力を身につけ、新しい単語について勉強しました。日頃から、英語圏出身でない人に向けての英語の授業を担当している先生なので、とても聞き取りやすい英語を話してくださり、わからない単語なども言い替えや例えなどを使いながら、一つ一つ説明してもらえたためとてもわかりやすかったです。



↑ English Class の風景

## 3. 薬学研修について

薬学についての授業では、英語の授業と同様に、オーストラリアで調剤を行う体制について・医療制度について・医薬品について・薬局についてなど、薬に関わることを全般について学習しました。また、実際にオーストラリアの薬局に行き、店舗の配置や薬局での業務を見学しました。やっていることは、基本的には日本と同じではありますが、やはり細かい違いが多くあり、とても興味深かったです。医療体制も、保険証や保険制度に多くの類似点がありつつも、全く同じではありませんでした。だから、英語で言っていることは理解できても、日本にない制度をなかなか理解することができないことも多々ありました。他にも、紫外線が問題になっているオーストラリアでは日焼け止めやスキンケア用品が幅広く展開されていたり、日本よりもビタミンが広く一般に使用されているため日本の何倍もの種類のビタミン剤が販売されていたりなど、国の特色が出ていると感じました。また、現在日本でも薬局で血圧を測るなどのサービスをするところが多くなってきていますが、オーストラリアでは血圧測定やインフルエンザの予防接種など多くのサービスがなされており、日本以上に薬局というのが国民にとって身近な存在であるように感じました。



↑ 薬局見学の様子

#### 4. 異文化学習について

オーストラリアの文化について学習する2つ授業がありました。1つめの授業では、オーストラリアの固有の動物と日本よりも自然が多く野生生物が多いオーストラリアにおける動物保護について学ぶため、保護区へ行きました。オーストラリアの固有種は日本よりも大変多い、そしてそこに住んでいる人は自国の固有種についてよく知っていると感じました。日本も固有種はありますが、インターネットで調べるまで具体的なものが浮かんできませんでした。オーストラリアは自然が身近にあり、住民も自然についてよく知っているのがとても良いことだと思いました。

もう1つの授業では、オーストラリアの先住民族であるアボリジニの人の案内のもとで、アボリジニの思想や、日本の漢方の様に日常生活や医療に使われていた動植物について教えてもらいました。実際に植物を触ったり食べたりして教えてもらったのでとても印象深かったです



↑ 原住民族の人が使っていた植物についての説明を受けている様子

## 5. 最後に

今回のオーストラリアの研修で、日頃の学生生活では関わりのなかった他学年の人たちとも関わることができましたし、ホストファミリーや学校の人など現地の多くの人たちとも関わる機会がありました。今回の留学は、私にとって一生の思い出となりました。今回の留学で見た海外の様子や実際に触れた英語が、将来働く上でしっかりと活かせるようにしたいと思います。

